

Insects damage & Solutions

■ 害虫による被害と対処法

プルメリアに発生する主な害虫を紹介します。

害虫は虫の種類ごとに好きな植物が決まっています。特に同じ植物をたくさん育てていると、そこでさかんに増殖し一気に増えてしまいます。早めの対処が肝心です。

ハダニ類 Spider mites



高温と乾燥で発生します。葉裏に寄生し汁を吸い、葉の葉脈素がぬげ白っぽくカスリ状になります。極微小な虫ですが繁殖力が強く薬剤に対する抵抗性がつきやすいため、数種類のダニ退治薬を交互に散布することが必要です。

※葉を変形させるので汚くなった葉は落としてしまっ
てかまいません。



主な薬剤

- 粘着くん液剤**
有効成分に食品であるデンブンを使用した環境にやさしい殺虫・殺ダニ剤。
- テルスタースプレー**
速効性と残効性にすぐれ、抵抗性のついた害虫にも効果があります。
- アクテリック乳剤**
オンシツコナジラミ・カイガラムシ退治に効果を発揮。広範囲の害虫に。
- BUG-B-GONE** (アメリカで購入可能)

コナジラミ類 White flies



多くの草花、野菜類などに寄生し、ハダニと同じような被害症状ですが白い小さな虫が飛び交います。卵・幼虫・蛹・成虫を一度に退治する事は難しいので、くり返し薬剤を散布してください。

※幼虫は葉の裏に固着して吸汁します。コナジラミが出す甘露にすす病が発生します。20度では卵から成虫になるまでに28日かかります。

主な薬剤

- アクテリック乳剤**
オンシツコナジラミ・カイガラムシ退治に効果を発揮。広範囲の害虫に。
- 粘着くん液剤**
有効成分に食品であるデンブンを使用した環境にやさしい殺虫・殺ダニ剤。
- オルトラン水和剤**
計量の手間がいらない、便利な分包タイプ予防としてもお使いください。
- BUG-B-GONE** (アメリカで購入可能)

カイガラムシ類 mealy bugs



風通しが悪い環境で発生します。排泄物はすす病こうやく病などの病気を誘発させます。成虫は殻をかぶって防除が難しくなるため、比較的退治しやすい幼虫期(5月~9月)の薬剤散布が決め手です。

※歯ブラシなどでこすり取ってしまうのも良いでしょう。

主な薬剤

- アクテリック乳剤**
オンシツコナジラミ・カイガラムシ退治に効果を発揮。広範囲の害虫に。
- ボルン**
マシン油を成分としたカイガラムシ退治専用。
- オルトラン水和剤**
計量の手間がいらない、便利な分包タイプ予防としてもお使いください。
- BUG-B-GONE** (アメリカで購入可能)

その他にも、樹幹の枝や樹皮下を食害する「カミキリムシ」などがあげられます。食入した部分からおがくずのようなフンが排出され、最終的には枝枯れを引き起こします。しおれていない部分の茎を割ると中からカミキリムシの幼虫が出てきます。普段から害虫を発生しにくくする環境が大事です。鉢と鉢の間隔をとり、風通りをよくし、その回りを清潔に保つ事がなによりの対処法となります。

